

# 2020年7月28日（火）～8月2日（日） 北アルプス 雲ノ平を歩く

3日目（7月30日 木曜日 天候：朝まで雨 のち曇り 夕方から晴）

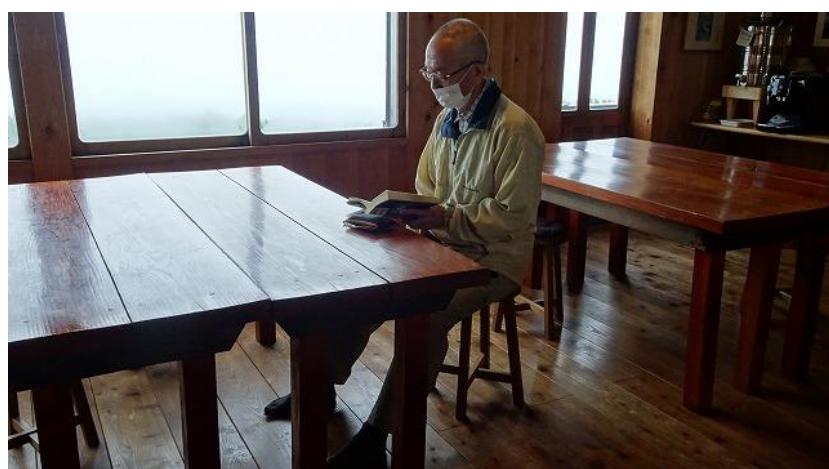
Report 担当替わって堀です。

明け方まで風雨強く、朝食時（5:00）にもまだ雨は上がらない。今日の予定は祖父岳（じいだけ）～岩苔乗越～鷲羽岳～岩苔乗越～水晶池～高天原山荘だが、コースタイムで7時間ほどある。初日の雨中登山のトラウマもあって雨の様子を見ながら時間が経過していく。

当初の計画を断念して、高天原山荘に直行することにする。これにより今回は、結局、山らしい山には登らない山行となってしまった。



朝5時から朝食を食べ、雨が上がるのを待つ。  
鷲羽岳に登らないならそれほど急ぐことも無い。



7時40分、吉松さんは読書に勤しんでいる。  
＊小屋の蔵書、伊藤正一氏著「黒部の山賊」を読んでました。

堀はコーヒー（¥600）を頼のむ。  
豆からミルで丁寧に挽いて淹ってくれたコーヒーは久しぶりで美味しかった。



8:30ようやく雨も上がったようで、“出掛けれるか”という気になる。



雨は上がっているが、いつ降り出すか分からないので、二人とも完全装備である。  
(あつものに懲りてなますを吹く?)

8:30 を廻っている。写真を撮って出発



山荘から少し下った所で登山道に出る。



鷲羽岳に行くには祖父岳方向だが、高天原に直行するので北に向かうことになる。ここから北方向の道は無いし、薬師沢方向に少し戻るのだろうと何となく昨日来た道を戻ってしまった。暫く（数分）戻りながら思い起こせば、この辺りで昨日歩いた時には、そんな道は無かったな。そこで地図を取り出してみるとやはり祖父岳方向に少し行ったところに高天原への分岐がある。



10分ほどのロスで本来のルートに戻り、30分ほどでケルンのある小高い広場に到着。火山性の岩、赤い土、如何にも溶岩台地である。



雨は上がり空に明るいところは見えるが、雲は低く垂れこめている。



ハクサンシャクナゲが花期を迎えている。



ケルンから 30 分ほど歩くと雨量計などの観測・送信施設があった。

富山県は北陸電力だが、この施設は関西電力である。

そう言えば黒部ダム（クロヨン）も関西電力だ。

こうなっているのには複雑な事情がありそうだ。





溶岩台地と言っても半湿地のようなところが多い。



そのため、湿地を好むイワイチョウが見られる。



10時半、「奥スイス庭園」まだ雲ノ平の領域だ。



雲ノ平を抜けると高天原峠に向かって急な下りとなる。  
こんな梯子が幾つか掛かっている。



ようやく高天原峠に到着。すでに 12 時を過ぎている。雲ノ平山荘から、コースタイムでは 1.5 時間となっているが、3 時間は掛かっている。ここから高天原山荘までコースタイムで 1 時間である。



谷川はかなり増水している。  
明日はいくつかの谷川を渡渉しなければならない。



岩苔乗越への分岐、鷲羽岳に登っていたならここに下りてくるはずだった。



高天原山荘の近くは広々とした平地になっている。



13:45 ようやく高天原山荘に到着。  
峠から 1.5 時間掛かった。

元々定員の半分しか予約を取っていない上に、キャンセルも多いようで、ガラガラだ。

先ずは表で遅い昼食を摂る。



着替えと入浴の準備をして小屋から 20 分の高天原温泉（からまつの湯）に出掛ける。



谷川の脇に浴槽がある。  
脱衣場などは無い。  
もう一つ浴槽があり、そちらは囲いがあつて脱衣場もあるにはあるが、雨上がりで湯温が下がっているとのこと。





女湯もある。吉松さん、いけませんよ！



風呂上りはやはりビール（¥600）である。



PM5:00 夕食。蕎麦が付いている。



小屋の前からは水晶岳が見える。  
小屋にも水晶の小片が飾られていた。  
水晶岳の花崗岩には水晶やザクロ石が含まれているそうだ。



一区画ごとにビニールシートで仕切って、そして一人おきである。  
ハイシーズンにこんな小屋はこれまでない。  
消灯は20時だが「ランプの宿」という名の通り、明かりは乏しい。  
19時過ぎには寝てしまった。

#### 4日目（7月31日金曜日 天候： 晴れたり曇ったり）

今日の行程は高天原山荘から高天原峠を経て、大東新道を薬師沢小屋へ、そこから太郎平小屋というコースタイムで7.5時間ほどである。昨日はコースタイムの2倍ほども掛かってしまったが、昨日のペースだと10時間は掛かる。昼食は薬師小屋で取るつもりだ。

途中幾つかの渡渉があり、薬師沢出会いも水量が多いときは高まきしなければならない。  
5時の朝食の前から小屋のお兄さんが薬師沢小屋と連絡を取って沢の状況を確認してくれている。  
薬師沢では通常より20cmほど水量が多いが、通過には支障が無いということだ。



高天原山荘は、温泉もあるが水も豊富である。近くの沢から引いた水が、それこそ源泉かけ流しである。  
顔を洗って、さっぱりして朝食である。



小屋の前で出発写真を撮り、6:00 小屋を後にする。  
この時は、今夜もここに泊まろうとは夢にも思わなかった。



昨日来た道を高天原峠まで戻る。  
昨日に比べて水量はどうか？あまり変わらないように見える。



小屋を出て 1.5 時間弱で高天原峠に到着。  
ここからは、薬師小屋への道、大東新道を辿ることになる。  
大東新道はかつてこの辺り（高天原）でモリブデンの採掘をしていた大東鉱山という会社が開いた道である。



大東新道は黒部峡谷の奥ノ廊下に注ぐ A～E の 5 つの沢を渡渉しなければならない。  
我々は上流に向かっているので、一番下の E 沢から A 沢に順番に渡っていくことになる。



8:30 最初の E 沢にかかる。



E沢は、どうということのない沢であるが、沢に下って対岸に渡り、今度は急登というのが曲者である。



次いで D 沢

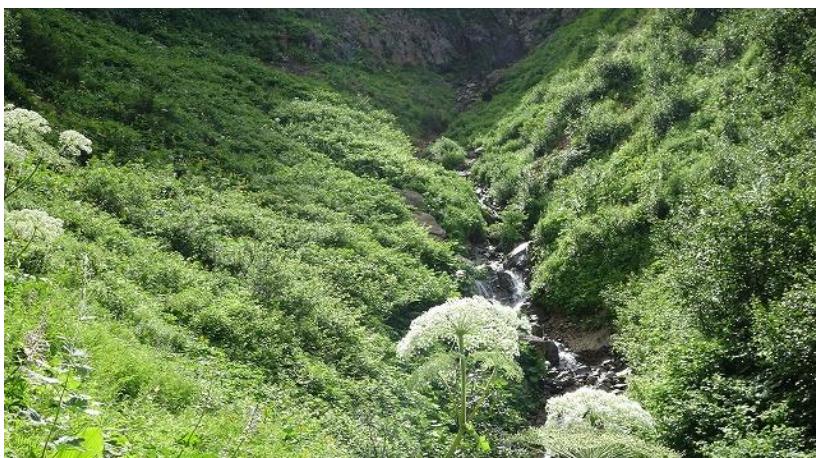


谷に向かって、まずは下り。



このあたり、ギボシが沢山咲いている。

クルマユリやオトギリソウ、フウロソウも見られる。



D沢はまだかなり下の方だ。



ロープにつかり、慎重に下降する。

D沢も問題なく渡渉。まだ10時を回ったところだ。



そして一時間が経過し、11時、B沢にかかる。



滝もあり、水量もかなりある。



足場になる石は水の中である。

(この直前、堀は大きな石の上で足を滑らせ転倒して、腰のあたりの背中を強打してしまった。あとで確認したが、アザにはならなかったが、数日痛みが残った)

水流が早く、足場も良くない。ほかに迂回ルートも無く、予備の食料など食べながらしばらく様子見とする。対岸から若い人が何とか渡ってきたので、少し話を聞いてみる。A沢もB沢と似たり寄ったりだとのことだ。「滑ったり転んだりで、傷だらけですよ」と言っていた。ここを渡渉するのはリスクが大きすぎる。この水流では、転倒したらただでは済まない。結局、渡渉は断念する。

ここから戻るとなると、高天原峠から高天原山荘に戻るか、或いは雲ノ平山荘に戻るかどちらかとなる。まずは高天原峠まで戻ってから決めることとする。

高天原峠に戻る。時間も時間であり、今日の宿泊予約は太郎平小屋（高天原山荘と同じ経営）なので、変更連絡もスムーズにいきそうな高天原山荘に戻ることにする。元気な吉松さんは高天原山荘に先行する。ほぼ一時間のコースタイムで4時過ぎには高天原山荘に到着したこと。



16時50分吉松さんからだいぶ遅れてようやく高天原山荘に到着。  
宿泊は問題なく取れたそうだ。  
昼飯も満足に食べられず、滑ったり転んだり、今日は疲れた。  
風呂に行く時間も無く、夕食を食べてすぐに寝た。

明日はA沢も減水して渡れるかもしれないが、渡れずに更に一日延長は考えられない。  
雲ノ平からアラスカ庭園を経て、往きには絶対取りたくないルートだと思った直登ルートを下るしかないだろう。  
お休みなさい。